



全国の学生から集まった夢を紹介!



TOWNWORK Presents

キャンパスライフ・プラスワン

Campus Life+1 通信

～教えて!みんなの夢～ Vol.8

学生の皆さんへの夢募集企画

「Campus Life+1」に

お寄せいただいた夢をご紹介します。

どのような夢を持っているのか?

その夢を持つに至った背景は?

今、どんなことに取り組んでいるの?

全国の学生の皆さんの「夢」に迫ります!

Profile

鹿児島国際大学
4年生
片平 翔太くん
(23歳)

武士に憧れを持ち、俳句だけではなく詩吟や剣術も学んでいる。雅号(ペンネーム)は「叢草(むらさき)」。



自分の生き様を伝える オリジナル句集を出したい!

私の夢は「オリジナルの句集を出版すること」です。私が俳句に興味を持ったきっかけは、幕末の武士の生き様に強い憧れがあり、その中でも、武士が最後に残す「辞世の句」の潔さに強い関心があったからです。そこで辞世の句を調べているうちに、俳句に限られた文字数で自分の想いを比喻して伝える点や、句から書いた人の当時の情景を思い浮かべられる俳句の奥深さに魅了され、自分でも書くようになりました。松尾芭蕉や小林一茶といった過去の歌人の句集を繰り返し読み、言葉の選び方などを勉強しています。日常で見かけたひとコマはもちろん、電車に乗って少し遠出をしながら書くこともあります。現在は、**そうして書き上げたものを自分で作ったFacebookページに公開しています。**知人だけではなく、たまたまページを訪れた人たちに評価してもらえるとうれしい気持ちになり、日々の創作活動のモチベーションにつながっています。また、年末年始には1人で東京へ行き、12月31日から1月1日にかけて東京の

街を歩きながら除夜の鐘にあわせて108個の俳句を考え、Facebookページにあげる企画を実行しました。このような活動の集大成として自分の句集を出版したいと考えています。俳句に出会えたことで、私の人生観は大きく変わりました。元々、消極的で引きこもりがちな性格でしたが、俳句を書くために外に頻繁に出るようになりました。年輩の方とも接する機会が増え、自分には持っていない視点で社会を捉えていこうという姿勢は大変勉強になっています。**私は4月から就職しますが、仕事を続けながらも俳句の創作活動を続け、いつか自分の句集を出したいと思っています。**



▲ノートを片手に街を散策しながらも俳句の「ネタ」になるものを探している



▲最近は季語を使用しない五・七・五形式でもない自由律俳句を好んで創っている



夢への足跡

2007年 16歳

武士にまつわる伝記や資料を読み、強い影響を受ける

2010年 19歳

本格的に俳句を書き始める

2013年 22歳

体調を崩し入院している際に自由律俳句に出会う

2013年 22歳

自分の句集を出したいと Campus Life+1 に応募

片平さん渾身の一句

早々と 諦めた恋 春の星

春は、活動を控えていた植物が花を咲かせたり、冬眠を終えた動物たちも活発になる季節だが、自分の恋は活発にならないことを嘆いている俳句。夜道を歩いている時にふと思いついたとのこと。

「Campus Life+1通信」の最新情報はこちらからCHECK!

<http://entac.jp/>

インタク

検索